

降雹・突風・大雨に対する技術対策について

農業総合センター
専門技術指導員室

I 普通作

1 水稲

<点検・準備>

- (1) 育苗ハウスの点検については、施設野菜の項を参考にする。

<事後対策>

- (1) 冠水被害は、葉先が少しでも水面に出ていれば軽くなるので、速やかな排水に努め、排水後は清水に入れ替える。
- (2) 水が引いた後しばらくしても新根や新葉の発生がなく、葉が簡単に引き抜けてしまう場合には、植え替えが必要になる。通常は3～4日程度の連続冠水であれば、分けつが遅れるものの、概ね生育は回復する。
- (3) 冠水後は黄化萎縮病、白葉枯病が発生しやすい。また、雹による打ち傷でも白葉枯病が発生しやすくなるので、その後の発生に注意し、発病を認めたら速やかに薬剤散布を行う。
- (4) 除草剤を散布する場合は、活着を確認してから行う。冠水した水田では、除草剤散布前に畦畔が崩れていないか確認し、水管理に支障をきたす場合には速やかに補修する。

2 麦類

<点検・準備>

- (1) ほ場の明きょなどを点検し、速やかな排水に備える。

<事後対策>

- (1) 冠水したほ場は、速やかに排水に努める。
- (2) 赤かび病の発生が多くなると予想される場合には、防除適期のほ場は速やかに薬剤散布を行う。

Ⅱ 野菜

1 施設野菜

<点検・準備>

- (1) ハウス周囲に排水溝を設けて施設内への水の侵入を防ぐ。
- (2) 防風ネットの強度を確認する。
- (3) ハウスバンドや被覆フィルムの取り付け金具等に緩みがないか確認する。
- (4) 被覆資材の破損がある場合は、テープで補修しておく。
- (5) 換気扇等のあるハウスは、密閉して運転し、施設内に負圧をかけておく。
- (6) 出入り口に隙間のあるパイプハウスは、ビニルで覆い、密閉度を増す。
- (7) 燃料タンクは、転倒しないように安定性の確認を行う。
- (8) ハウスの周辺を清掃する。

<事後対策>

降雹や突風による施設の破損や作物の損傷が生じた場合、また大雨による浸水があった場合は速やかに次の対策を行う。

- (1) 施設の破損の点検を行い、必要な補修を行う。
- (2) 施設内が浸水及び冠水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。
- (3) 畦がくずれたほ場では、畦を直し、更に株元が露出している場合は土寄せを行う。
- (4) 茎葉の損傷や冠水があった場合は、病害が発生しやすくなるため、折損部位の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。
- (5) 収穫中の果菜が損傷した場合は、草勢の回復を優先するため、果実を一部除去して負担を軽減する。

2 露地野菜

<点検・準備>

- (1) ほ場周りの排水路を確保する。
- (2) マルチの押さえを確認し、トンネルはバンドや網で押さえる。
- (3) 果菜類では収穫できる実はすべて収穫しておく。

<事後対策>

生育中の野菜で茎葉に損傷が見られる場合は、今後病害の発生や生育の遅れが心配されますので、早急に下記の管理を行ってください。

- (1) 圃場が冠水した場合、圃場周りの排水路等により速やかに排水する。
- (2) マルチやトンネルの場合、被覆資材の押さえの状況を確認し、また、ビニル等の

損傷がある場合は速やかに修復する。

- (3) 作物に付着した泥を落とし、損傷した茎葉を取り除く。
- (4) 茎葉の損傷部より腐敗や病気が発生しやすいので、損傷部の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。
- (5) 液肥の葉面散布により、草勢の回復を図る。

Ⅲ 果 樹

1 ナシ、リンゴ等

<点検・準備>

- (1) 支柱やネットの強度を確認し、弱い部分は補強する。
- (2) 棚栽培では、棚面の随所に支柱や針金による下方への誘引を行い、上下動を抑える。
- (3) 多目的防災網の固定ロープ・あおり止めの点検・補強を行う。
- (4) 開花時期の降雹もあるため、積雪に注意しながら、できるだけ開花前に多目的防災網を広げる（ナシ人工受粉を前提とする）。

<事後対策>

特に突風や降雹被害があった場合や果実や樹体への損傷をよく観察して、下記の対策を行う。また、果実への傷害は降雹後1週間程度で判別可能になる。

- (1) 摘果は被害面、上面をよく確認しながら丁寧に実施し、軽微な傷のものはなるべく残す。
- (2) 果軸の損傷はコルク化し、軸折れの原因となりやすい（特に豊水）ので注意する。
- (3) 太い枝の損傷部分は、塗布剤により保護する。
- (4) 主枝、亜主枝、予備枝先端の新梢が欠損した場合、新たな新梢発生・伸長を待ち、育成する。
- (5) 葉面積の確保のため、枝や新梢の切り戻しはしない。
- (6) 枝葉の損傷部より病気が発生しやすいので、損傷部の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。枝葉の再伸長がある場合、その後のアブラムシ等の発生に注意する。

Ⅳ 花 き

1 施設花き

<点検準備>

施設野菜の項を参照する。

<事後対策>

降雹や突風による施設の破損や作物の損傷が生じた場合、また大雨による浸水があった

場合は速やかに下記の対策を行なってください。

- (1) 施設の破損の点検を行い、必要な補修を行なう。
- (2) 施設内が浸水及び冠水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。
- (3) 畦がくずれたほ場では、畦を直し、更に株元が露出している場合は土寄せを行う。
- (4) 茎葉の損傷や冠水があった場合は、病害が発生しやすくなるため、折損部位の除去や薬剤散布などの防除対策に努める。また、花きの種類や被害程度に応じて、液肥の葉面散布等を行い、草勢の回復に努める。
- (5) 採花中の切り花が損傷した場合は、草勢の回復を優先するため、切り戻し等を行い、負担を軽減する。

2 露地花き

<点検・準備>

露地野菜の項を参照する。

<事後対策>

生育中の茎葉に損傷が見られる場合は、今後病害の発生や生育の遅れが心配されるので、早急に次の管理を行う。

- (1) 圃場が冠水した場合、圃場周りの排水路等により速やかに排水する。
- (2) マルチやトンネルの場合、被覆資材の押さえの状況を確認し、また、ビニル等の損傷がある場合は速やかに修復する。
- (3) 作物に付着した泥を落とし、損傷した茎葉を取り除く。
- (4) 茎葉の損傷部より腐敗や病気が発生しやすいので薬剤散布などの防除対策に努める。また、液肥の葉面散布等により草勢の回復を図る。
- (5) 土壌によっては、強風や降雨により土壌表面が固結しやすい場合があるので、浅く中耕を行い、根傷みの回復を図る。

V 畜産

1 畜舎等施設

- (1) 畜舎や堆肥舎の周辺に排水溝を掘り、雨水のスムーズな排水に努める。
- (2) 畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修・補強を行う。
- (3) 各地域において、あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等について、早急に対応できるようあらかじめ準備しておく。
- (4) 浸水した畜舎等施設は、天候が回復した後、直ちに舎内及びその周辺等の排水を

行い，施設の乾燥に努め，施設の滞水が引き次第，水洗し，消毒剤や石灰塗布を行う。

(5) 生乳処理室などに風雨が吹き込んだ場合は，器具機材の消毒を行う。

2 飼料作物

(1) 冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては，速やかな排水に努める。